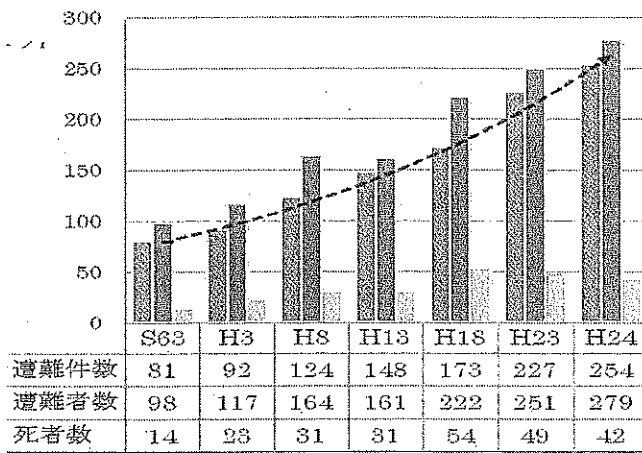


長野県における山岳遭難の状況と遭難者の特徴について

山岳遭難の状況

1 遭難発生件数と遭難者の推移 (単位: 件/人)



2 本年の発生状況【速報値】

(1月1日～9月22日まで) (単位: 件/人)

区分	遭難件数	遭難者数	死者数
平成 25 年	222	240	51
平成 24 年	207	229	33
前年比	+15	+11	+18

- ・ H24 年 遭難者 279 人 (前年比 28 人 増)
3 年連続過去最多【最悪】を更新
- ・ H24 年 山岳会等に所属しない「未組織登山者」が約 8 割 (79.2%)
- ・ H24 年 40 歳以上の「中高年登山者」が約 8 割 (78.5%)
- ・ H24 年 遭難者は大都市圏中心に県外居住者が約 9 割 (86.0%)
- ・ H24 年 事故原因は「転落・滑落・転倒」が約 6 割 (58.1%)
- ・ H25 年の遭難発生状況については過去最多の昨年のペースを上回る状況
- ・ 病気による遭難の発生が (H25 9/22 現在) H24 年 (9.8%) ⇒ H25 年 (14.9%) に増加
- ・ 年代別では 60 歳代が最多 (H25 9/22 現在) H23 (30.6%) H24 (29.7%) H25 (31.7%)

遭難者の特徴と課題

1 体力や健康の衰え等を認識出来ていない『中高年登山者』

- ・ 昭和 40 年前後の登山ブームの経験者 ⇒ 昔の成功体験と、現在の自己体力の認識不足
- ・ 登山中の心疾患発症事例の増加 ⇒ 自分の健康状態に見合った登山を計画していない

2 知識・技術を習得していない『未組織登山者』

- ・ 健康志向などを目的に登山を始めた、知識・技術を伴わないで自己流の登山
- ・ インターネットや雑誌からの情報のみで、登山経験者からの学習・訓練を受ける機会が減少

3 『遭難は他人事』と思う危険意識の欠如

- ・ 中高年の登山ブームや「山ガール」に見られる登山のレジャー化
- ・ 安全対策を伴わない登山の喧伝に対する適正な情報の提供不足
- ・ 自分だけは遭難しないとの認識で入山 ⇒ 不意のアクシデントに対応できない

4 長野県の山に訪れる情報・理解不足の『外国人登山者』

- ・ 登山に対する意識・文化・スタイルの相違 ⇒ 母国とは異なる山岳環境や言葉の壁の存在
- ・ 長野県の山を登る際に必要な情報・理解の不足

長野県警察

ホーム > 山岳情報 > 長野県内の山岳遭難発生状況(週報)

更新日:2013年11月6日

長野県内の山岳遭難発生状況(週報)

山岳遭難発生状況(平成25年1月1日～11月4日)

山岳遭難発生状況

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出等	遭難者計
平成25年	284	63	8	152	80	303
平成24年	245	39	6	155	68	268
前年比	39	24	2	-3	12	35

山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北ア	槍穂高	76	26.8%	12	2	47	22	83
	後立山	59	20.8%	11	0	33	21	65
	その他	30	10.6%	2	1	19	9	31
	小計	165	58.1%	25	3	99	52	179
中央アルプス	21	7.4%	10	1	8	4	23	
南アルプス	10	3.5%	3	1	5	1	10	
八ヶ岳連峰	28	9.9%	5	0	20	6	31	
その他の山岳	60	21.1%	20	3	20	17	60	
計	284		63	8	152	80	303	